

2024 年度 総合型選抜 9月募集（横浜受験方式） 【課題型】

理工学部 数理・物理コース

理工学部 数理・物理コースの課題は、「数学」と「物理」の2種類が掲載されています。
(コース名の右側に、それぞれどちらの課題か記載しています)

数理・物理コースを志望している方は、「数学」または「物理」の課題どちらか1つ選択し、
取り組んでいただきますようお願いいたします。

「数学」「物理」共通： 課題レポート指定書式のダウンロードはこちら
[<WORDファイル>](#) [<PDFファイル>](#)

「物理」のみ： グラフ書式のダウンロードはこちら [<PDFファイル>](#)

以上

※次ページ以降、「数学」→「物理」の順番で課題が掲載されています。

2024 年度 総合型選抜 (9 月募集) 【課題型】

理工学部 数理・物理コース (数学)

【課題】

課題：次の数学の問題 1 および 2 に関して A4 用紙 2 枚程度のレポートを作成してください。出願時に、課題レポートの原本を提出してください。その際、コピーを手元に保管しておいてください。試験当日は、ホワイトボード (または黒板) でこの課題に関するプレゼンテーションをしてもらいますので、併せて発表の準備 (何を板書し、何を話すかなどの準備) をしてください。

問題 1. 2 つのベクトル \vec{a} , \vec{b} とそれらのなす角 θ は、

$$|\vec{a}| = 2, \quad |\vec{b}| = 5, \quad \theta = 60^\circ$$

であるとする。 c は実数の定数とする。実数 t の関数

$$f(t) = |c\vec{a} - t\vec{b}|$$

を考える。次の問に答えよ。

- (1) 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。
- (2) $f(t)$ が最小値 $10\sqrt{3}$ を取るような定数 c の値と、そのときの t の値の組を全て求めよ。

問題 2. 次の問に答えよ。

- (1) $x > 0$ に対し、 $g(x) = 2\sqrt{x} - \log x$ とする。 $g(x)$ が最小になるときの x の値と $g(x)$ の最小値を求めよ。
- (2) (1) の結果を利用し、極限

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x}$$

を求めよ。

・評価方法

志望動機と課題に対するプレゼンテーションと質疑応答などを総合的に評価します。なお、課題に対する質疑応答には課題に関連した数学についての質疑応答も含まれます。

・諸注意

1. 試験の時間配分は以下の通りです。
 - (1) 数理・物理コースの志望動機に関するプレゼンテーション (5 分) と質疑応答 (3 分)
 - (2) 課題に対するプレゼンテーション (10 分)
 - (3) 課題に関する質疑応答 (12 分)
2. プレゼンテーションで使用するホワイトボード (または黒板) は大学側で用意します。

2024年度 総合型選抜（9月募集）【課題型】

理工学部 数理・物理コース（物理）

【課題】

次の物理学の問題に関して A4 用紙 2 枚以上(グラフ 1 枚を含む)のレポートを作成してください。出願時に、課題レポートの原本を提出してください。また、コピーを手元に保管しておいてください。試験当日は、ホワイトボード(または黒板)でこの課題に関するプレゼンテーションをしてもらいますので、併せて発表の準備(何を板書し、何を話すかなどの準備)をしてください。

【問題】

図 1 のように、摩擦のある水平な面の上に質量 $M[\text{kg}]$ の物体 A を置いた。物体 A には、伸び縮みしない質量の無視できる糸がつながれており、糸の先は滑らかな滑車を経ておもり B につながれている。はじめ物体 A は静止していたが、おもり B の質量を徐々に増やしていったところ、おもり B の質量が $m[\text{kg}]$ になったところで物体 A は動きだした。同様の実験を、物体 A の質量を変えながら 10 回行った。このときの物体 A の質量とおもり B の質量を表 1 に示す。重力加速度の大きさを $9.8[\text{m/s}^2]$ とする。

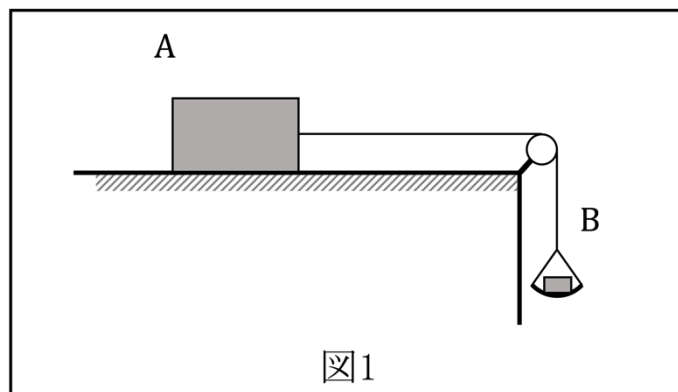


表1：物体Aが滑り出したときのおもりBの質量

物体Aの質量(kg)	おもりBの質量(kg)
0.100	0.067
0.200	0.108
0.300	0.150
0.400	0.203
0.500	0.286
0.600	0.377
0.700	0.440
0.800	0.455
0.900	0.561
1.000	0.605

(1) 物体 A が動きだしたときの、物体 A の質量 $M[\text{kg}]$ とおもり B の質量 $m[\text{kg}]$ をグラフにプロットしなさい。そのグラフと物体 A にはたらく力のつりあいの式から、静止摩擦係数 μ を求めなさい。

(2) 水平な面と、それに接触する物体 A の底面の材質の組み合わせは、表 2 に示すうちのいずれかであるとす。 (1) で求めた静止摩擦係数より、水平な面と物体 A の底面の材質を答えなさい。

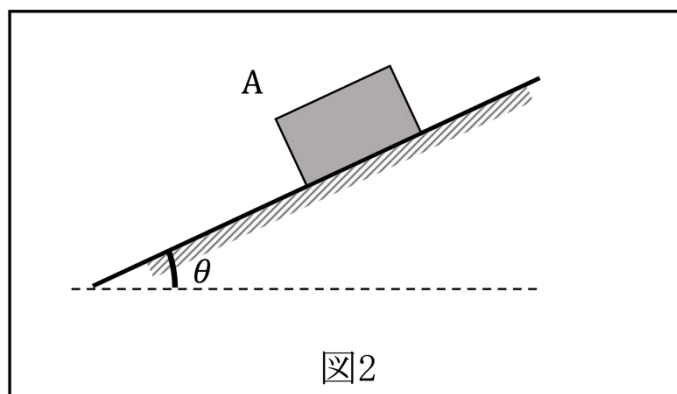
表2：摩擦係数

接触する2面	静止摩擦係数	動摩擦係数
テフロン - 鋼	0.04	0.04
ゴム - 氷	0.1	0.05
鋼 - 鋼	0.6	0.3
ゴム - コンクリート	1	0.7

出典：Paul Peter Urone, Roger Hinrichs, "College Physics", OpenStax, 2012

(3) 物体 A の質量を一定に保ったまま、底面の面積を 2 倍にしたとき、静止摩擦係数はどう変化するか、説明しなさい。

(4) 図 2 のように、物体 A からひもを外して、物体 A が置かれている面を斜めにした。傾斜角 $\theta[^\circ]$ をしだいに大きくしていったところ、傾斜角が $\theta_0[^\circ]$ となったときに物体 A は滑りだした。 $\theta_0[^\circ]$ はいくらか。



(5) 滑りだした物体 A の加速度の大きさ $[\text{m}/\text{s}^2]$ はいくらか。

【評価方法】

志望動機と課題に対するプレゼンテーションと質疑応答などを総合的に評価します。
なお、課題に対する質疑応答には課題に関連した物理学についての質疑応答も含まれます。

【諸注意】

1. 試験の時間配分は以下の通りです。
 - (1) 数理・物理コースの志望動機に関するプレゼンテーション(5分)と質疑応答(3分)
 - (2) 課題に対するプレゼンテーション(10分)
 - (3) 課題に関する質疑応答(12分)
2. プレゼンテーションで使用するホワイトボード(または黒板)は大学側で用意します。

以上